

伊丹ルーテル教会 顕現節第3 主日礼拝

2021年1月24日

前奏：

招きのことば：詩編 62 編 6-9 節

わたしの魂よ、沈黙して、ただ神に向かえ。神にのみ、わたしは希望をおいている。
神はわたしの岩、わたしの救い、砦の塔。わたしは動揺しない。
わたしの救いと栄えは神にかかっている。力と頼み、避けどころとする岩は神のもとにある。
民よ、どのような時にも神に信頼し 御前に心を注ぎ出せ。神はわたしたちの避けどころ。

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆：私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。
思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に
罪人です。神様、本当にごめんなさい。私たちは祈ります。私たちを救うため あなた
がお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。
(短い黙祷を持ちましょう)

牧師：何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・
キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ
務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊の
お名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。 **アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、
十字架につけられ、死して葬られ

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天に昇り、父なる全能の神の右に座したまえり。生
ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだの
よみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。**

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝もともに
礼拝にあずかり、あなたのみ言葉をいただいて一週間を始めます。ここであなたの赦しをいた
だきます。新たにいのちをいただきます。ここから感謝をもって新しい一歩を踏み出します。

いつも何か次のステップのために準備しているばかりで、今日を喜んで生きていない人が多い世の中であって、あなたは私たちを救し、新しくしてください。今日を、この一週間を自分の幸せのため、自分の幸せの準備のためではなく、神様のため、隣人の幸せのために生きる者としてください。

新型コロナ・ウィルスの感染が拡大しています。緊張感を保ちながら、その中でも御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして安心して生き生きと生きる日々を与えてください。この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン。**

使徒書朗読：1コリント7章29-31節

兄弟たち、わたしはこう言いたい。定められた時は迫っています。今からは、妻のある人はない人のように、泣く人は泣かない人のように、喜ぶ人は喜ばない人のように、物を買う人は持たない人のように、世の事にかかわっている人は、かかわりのない人のようにすべきです。この世の有様は過ぎ去るからです。

福音書朗読：マルコによる福音書1章14-20節

ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤへ行き、神の福音を宣べ伝えて、「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と言われた。

イエスは、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、シモンとシモンの兄弟アンデレが湖で網を打っているのを御覧になった。彼らは漁師だった。イエスは、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と言われた。二人はすぐに網を捨てて従った。また、少し進んで、ゼバダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、舟の中で網の手入れをしているのを御覧になると、すぐに彼らをお呼びになった。この二人も父ゼバダイを雇い人たちと一緒に舟に残して、イエスの後について行った。

讃美歌 352 番

- 1 あめなる喜び こよなき愛を、携え降れる わが君イエスよ、
救いの恵みを あらわに示し、いやしきこの身に 宿らせたまえ。
- 2 いのちを与うる 主よ、留まりて、我らの心を 常宮(とこみや)となし、
あしたに夕べに 祈りをささげ、たたえの歌をば 歌わせたまえ。
- 3 我らを新たに 造りきよめて、栄えに栄えを いや増し加え、
みくにに昇りて 御前に伏(ふ)す日、御顔の光を 映(うつ)させたまえ。 **アーメン**

説教：「神の国は近づいた」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

今日はイエス様が洗礼を受け、荒野での誘惑に勝って、いよいよ公けのお働きを始められたと
きのことです。エルサレムから遠く北の方に離れたガリラヤ地方でイエス様は宣教を始められ
ました。マルコによる福音書の1章14節以下に記されています。

15節でイエス様は「時は満ちた」と言われました。また「神の国は近づいた」と言われまし
た。そして、「悔い改めて福音を信じなさい」と言われました。

時は満ちた、ということはどういうことでしょうか。それは、イエス様の先駆者として人々に語
り、人々に自分のあとに来る方は救い主である、と言ったバプテスマのヨハネがヘロデ王に捕
らえられたということをイエス様が聞いたときです。イエス様のお働きの準備は整った、いよ
いよ時が満ちた、ということです。

私たちの人生は何かの準備で成り立っています。自分の生活の次のステップの準備や、家庭や
仕事では大切な方々のために次の生活のために準備をします。小学校に入るための準備、中学
校に入るための準備というように準備をして、学校を卒業したら、また次の準備をします。ま
た、定年が近づくと、定年後の働きの準備をしたり、そして最近世の中でも意識して死ぬ準
備をする人が増えてきました。

準備ばかりしていると、いつが本番かわからなくなります。準備がおわって少しほっとしたら、
次の準備にかからなければなりません。ぼやぼやしていたら出遅れてしまいます。いつも何か
の準備に明け暮れています。大きな変化のための準備だけではなく、日常生活の中でも買い物
や洗濯、スケジュールの管理や打ち合わせなど、何かの準備をして暮らしています。

イエス様は、「時は満ちた」と言われました。「神の国は近づいた」と言われました。イエス様
のお働きの備えが完了して、働きが本格的に始まったといわれました。イエス様はそのような
思いで今日あなたに語っています。今日の一日、イエス様があなたを赦して、あなたに新しい
いのちを吹き込まれる一日です。あなたにとって今日が人生の本番なのです。

確かに、今日の一日も明日のための準備の働きがあるでしょう。しかし、準備のためにまだ本
番を生きているのではない、ということではありません。今日、イエス様があなたの罪を赦し
て、あなたを新しくしてください。新しくされたあなたが、今日を生きる者として明日の
準備の本番を生きるのです。

イエス様は「悔い改めて福音を信じなさい」と言われました。それはイエス様の生涯のメッセ
ージです。私たちは自分の力や自分の知恵に信頼してきたことを悔い改めます。私たちの心が
神様から離れ、自分中心でわがままにひずんだ心になっているからです。そのままでは思うこ
と、言うこと、行うことがひずんでいます。神をあなたどり、人を傷つけ、自分を傷つけます。

私たちは悔い改めます。神さまの前で、自分はこのままではだめです、神様、自分中心であった自分の姿を見せて下さってありがとうございます。今あなたに心向けます、と方向転換をします。

そして福音を信じます。神の御子イエス様が人となって罪のない生涯を送り、十字架にかかって死んでくださったこと、よみがえってくださったことは、私の罪の赦しのため、私の新しい命のためであったという私にとっての良い知らせとして信じます。

悔い改めて福音を信じるのは今です。時が満ちました。備えのときは満了しました。今日、悔い改めて福音を信じます。イエス様の赦しといのちにあずかります。

悔い改めて信じる準備は満了しました。私たちはよくこんな風に考えます。信じることができたらどんなに楽だろう、どんなに幸せだろう。でも私は信仰が弱いから、すぐにぐらつくから、すぐイエス様のことを忘れてしまうから、自分はちゃんと信じる準備がまだできていないのだ。

しかし、このときイエス様は公けの生涯を始められ、そしてすでに十字架であなたのために死んでくださっています。また、よみがえってあなたの罪の赦しは確かなものだということを保証して、今日も生きてあなたに語り掛けて下さっています。

自分を見るとまだ準備ができていないと思うことがあります。しかし、そのあなたのためにイエス様はすべての準備を満了して、あなたに今日、赦しといのちを与えてくださいます。さあ、悔い改めて福音を信じましょう。

時は満ちた、神の国があなたに近づいた、悔い改めて福音を信じなさい、とイエス様は言われます。

悔い改めて福音を信じ、今日神の御国を生きる人は、イエス様のために生涯を使っていきたいと熱望するようになります。これまで自分の生涯は次の何かのための準備だ、と思って、今を生きることが少なかったことを思います。また、自分の力や知恵がどれほど弱く浅はかなものを思い知らされます。そして、そんな私をイエス様が命をはって愛して下さり、自分中心な私を赦して新しくしてくださったことを思います。新しくされた私は、何の役にも立たない、足手まといの者だけれど、でも何かイエス様のお役にたつ生涯を送っていきたい。そんな風に熱望するようになります。

あなたにとってそれは今日、どんな風を実現するのでしょうか。イエス様が置いてくださっているところ、送り出し遣わして下さるところで、イエス様のお役にたって生きていきたい。イエス様、どうぞ私を鍛えてください。あなたの御心を行うことができるように、あなたに従っていくことができるように、私の目を開き、私の手をうい、私の足を導き、私の口となってください。自分中心な思いで一日を始めるのではなくて、悔い改めて福音を信じて、赦されいぶきを吹き込まれた新しい人として、私たちは毎日生かされていることを神様に感謝をしながら、

イエス様のお役にたって歩いていきます。具体的には、イエス様が置いてくださっているそこで、人々の幸せをつくって歩いていくのです。

マルコによる福音書1章14節、15節をご一緒にたどってきましたが、続く16節からは四人の漁師が弟子となってイエス様に従っていったことが記されています。時が満ちた、と言われたイエス様は、人々にお話をしたり、困っている人々を助けたりする前に、弟子を呼び出しました。

イエス様はどのようにお弟子を探されたのでしょうか。これからの大切な働きを助け、後を受け継いでもらう弟子ですから、たとえば学歴の高い、人々から尊敬されている、将来有望な人々の中から探するのが普通です。しかし、イエス様のお考えは違います。町の中ではなく、湖のほとりを歩かれました。ガリラヤ湖という、その地方の大きな湖のほとりです。散歩をしていたわけではありません。考えをまとめるために歩いていたわけではありません。初めて出会う4人の人たちを訪ねるために歩いておられました。

それは二組の兄弟でした。みんな漁師をしていた人です。毎日、船で湖に少し漕ぎ出して投網で魚をとっていました。漁がおわると岸辺に舟をつけて、今使った網をつくろって次の日の漁のために準備をしました。そのようにして毎日、漁をして、次の日の漁の準備をする繰返しました。

まず、イエス様はシモンと、その兄弟のアンデレが網を打って漁をしている現場に来ました。シモンはあとでペテロと呼ばれるようになった人物です。毎日兄弟で漁をしていたのです。仕事の中のふたりにイエス様は「わたしについて来なさい」と言われました。そして「あなたがたを人間をとる漁師にしよう」と言われました。突然のイエス様のお声にもかかわらず、ふたりはすぐに網を捨ててイエス様に従いました。イエス様のお声にはそんな力があつたのですね。

19節には、イエス様が少し進んでいかれ、ヤコブとヨハネという兄弟の漁師に出会うことが記されています。このときふたりはすでにその日の漁を終えて、次の日の漁の準備をしていました。お父さんも一緒でした。また、お父さんの雇った他の漁師仲間も一緒に、段取りよく舟の中で網の手入れをしていました。

イエス様は仕事の準備をしているふたりをご覧になるとすぐ、彼らと呼ばれました。彼らはお父さんと雇っていた人たちを船に残して、イエス様に従って行きました。

お弟子たちは仕事の途中で、また次の日の仕事の準備の途中で、そこに来てくださったイエス様に語り掛けられました。だれでもよかったわけではありません。ヤコブとヨハネはお父さんや雇人の人たちと一緒にいたのですが、この二人だけがイエス様の語り掛けを受けました。

さきほど、悔い改めて福音を信じたら、イエス様のお役に立ちたいというあつい思いが湧き上がってくると申し上げました。みんなが弟子に召されるわけではありませんでした。しかしイエ

ス様がこの人は弟子としてイエス様に従って歩むことが一番の幸せだと呼びになる人に、弟子となるようにお声がかかりました。

漁師の兄弟たちにとって、イエス様の召しは工作中、仕事の準備中にきました。彼らは工作中だから、とか、準備中だからと言わず、それらを置いて、すぐにイエス様に従いました。彼らの時が満ちていたのですね。

福音によって罪を赦された私たちは、新しいのちをいただきます。これまでの人生をふりかえって、悔やんだり、嘆いたりするものではありません。傷や痛みを持ちながら、神様に赦された者として、人々の間で新しい歩みを毎日始めます。仕事に就くとき、仕事の準備をするとき、イエス様のお声を聴きます。同じ職場、家庭、近隣の人々の間に今日もおかれて生きていきますが、外面的にはまだ何も変わらなくても、いつも内側を新しくされて、神様から与えられるひと日の使命を生きがいにして、喜びをもってイエス様の弟子として今日を生きていきます。時は満ちています。

でも私たちは自分の召しを考えると、自分はイエス様のみ言葉を語るために弟子として召されていないか、いつも意識していくことは大切です。年齢や立場や環境やこれまでの経過をご存じのイエス様が、二組の漁師の兄弟たちを弟子としてお召しになりました。弟子として歩むことがその人にも、またその人を困む人々にももっとも幸いな生涯であることを、イエス様はお示くださいました。彼らはそれまでの生涯が備えのときであったことをわきまえ、本番の人生をイエス様に従って歩み始めました。そのときからイエス様は弟子たちを鍛え育てる日々を始められました。弟子たちもまた、弟子として育つ本番の毎日をイエス様に従って過ごしていきました。多くの人々にイエス様を証しする生涯を歩みました。

私たちも生涯をかけて、イエス様に従い、また、生涯をかけてイエス様を大切な友達に伝え、わかちあい、生涯をかけて、人々に感謝をしながら、生涯をかけて、隣人に役立って、育てられて生きていきます。

「愛する神さま、時は満ちました。神の国は近づいています。悔い改めて福音を信じ、日々あなたに従って歩んでいきます。この一週間も喜びにうちにどうぞ導いてください。主イエス・キリストのお名前によって祈ります。アーメン」

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン。

讚美歌 520 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 しずけき河の岸边を 過ぎ行くときにも、憂き悩みの荒海を 渡り行くおりにも、
＜繰返し＞ ころ安し、神によりて安し。

- 2 群がる仇はたけりて 困めど攻むれど、誘う者ひしめきて 望みを砕くとも、<繰返し>
- 3 嬉しや十字架の上に 我が罪は死にき、救いの道 歩む身は、ますらおの如くに<繰返し>
- 4 大空は巻き去られて 地は崩るとき、罪の子らは騒ぐとも 神による御民は<繰返し>
アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあげさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもなさせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン

頌栄：讚美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ、あぁみ栄えよ。アーメン

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。アーメン

後奏